

# 輪島市黒島地区伝統的建造物群 保存地区について

輪島市教育委員会

# 1 歴史的な沿革

## ■黒島の誕生と北前船主の居住集落としての発展

黒島集落の成立は16世紀前半と推察される。『黒島村小史』（昭和13年(1938)発行)によれば、釜エロ（黒島地区の北東部）と呼ばれる山間集落で半農半漁を営む人々が七軒丁（現在の本町の一部）に移り住み、漁業を生業にしたのが始まりと言われている。

江戸中期から明治前期にかけて北前船が全盛を迎えると、黒島でも有力な廻船問屋を輩出し隆盛を極める。しかし北前船が入港できる港を集落内に持たないことから、港町としては発展せず、廻船問屋も集落内では大きな商売をしてはいなかったと思われる。黒島は北前船の船主や船頭、水主の居住地であり、船主・船員の住宅地として発展したのである。



## ■北前船の衰退と船員の町としての繁栄へ

北前船衰退後は経済が停滞し、人口が減少したものの、漁業で生計をたてながら、一定の集落規模が保たれてきた。

黒島地区を含む現在の黒島町は、昭和29年(1954)3月まで他町村とは合併せず、一村一字を貫いてきた。

高度経済成長期に入ると、黒島では船舶技術を身につけ、石油タンカー、捕鯨船などの各種船舶の船員として働く者が増加した。『門前町史』（昭和45年(1970)発行)の資料によれば、当時の黒島の世帯のうち、58%が船員を家業としており、船員という職業が地場産業化していた時期と言える。日本船舶業界の黄金時代に、黒島も大きな飛躍を遂げてきたのである。

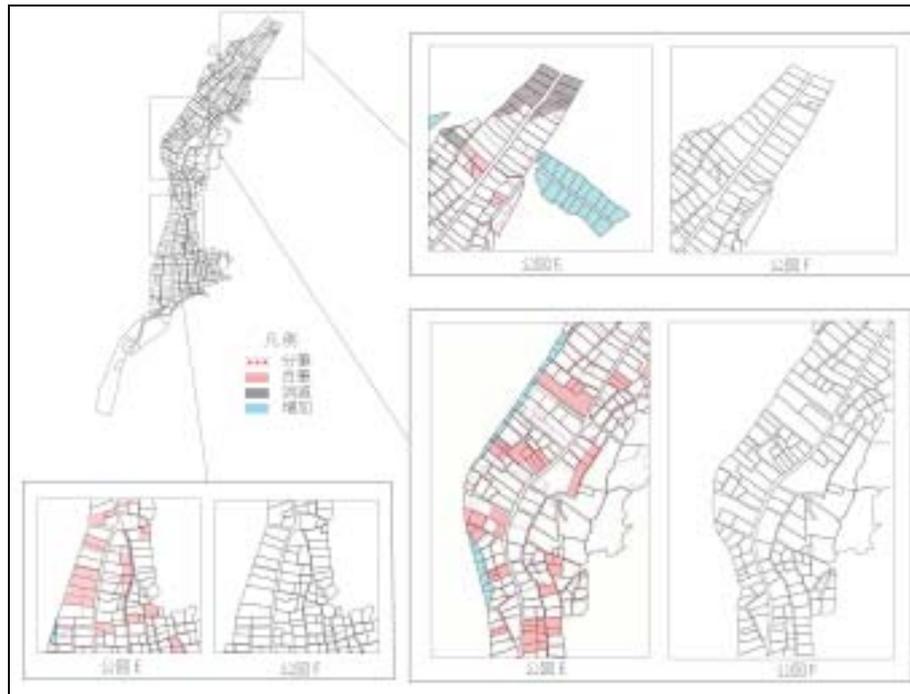
この時期には、地元の経済活動も活発になり、財力をかけた豪壮な一戸建て住宅の建築がピークとなる。明治以降から今日に至るまで、大工を継承する吉田一族が多くの住宅建築を手がけており、黒瓦、下見板、格子という黒島の外観意匠が継承され、町並みの統一感が保たれている。



## 2 黒島集落の構造

### ■現在も旧態が維持されている敷地割り

集落内を貫く本町通（外浦街道）を中心に、前面道路に沿って、町家地区に見られるような短冊型の敷地割となっている。現在の敷地割と明治期の敷地割を比較すると、一部の敷地で分筆・合筆が見られるが、大きな変化は認められず、近世以来の旧態を現在も保持していると言える。



### ■町並みの特徴

保存地区は、東側（山側）から西側（海側）に向かって緩やかに下る丘陵地上に形成されている。集落内には適度なアップダウンや曲がりくねりがある。また高台からは海を背景にして黒瓦の屋根が重なり合う景観を一望できる。

北町には間口の大きな廻船問屋の建物が残存し、町並みの核となっている。南町には廻船問屋の建物の他、洋風デザインを取り入れた理容室や酒販売店が町並みのアクセントとなっている。個々の建物の外観形成の要素として、「黒瓦・下見板張り・格子」という共通点があり、全体としての統一感ある町並みとなっている。

工作物では、石垣が景観上重要であり、石垣の上に、張り出すようにして建築物が建築される点は、黒島の景観を特徴づけている。

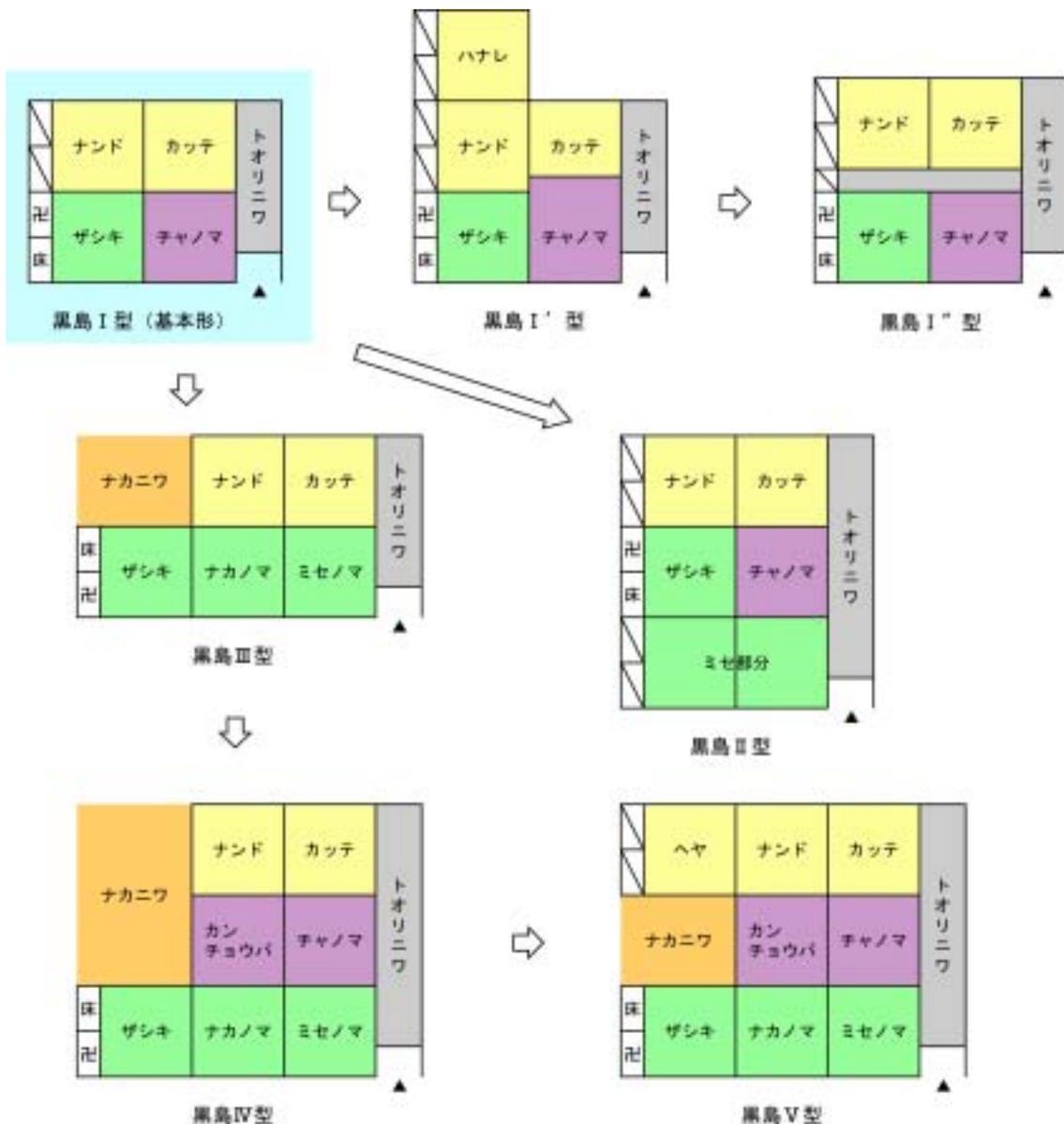


### 3 伝統的建造物と環境物件の特徴

#### ■ 建築物の間取りの特徴

建築物の間取りは、概ねすべての住宅が有している基本室（ザシキ、チャノマ、ナンド、カッテ、トオリニワ）と、間取りが大きくなる場合に追加される付加室（ナカノマ、ミセノマ、カンチョウバ、ハナレ（ヘヤ））によって構成されている。

建築物の規模に応じて、黒島Ⅰ型（二列二段・四室）から黒島Ⅴ型（二列三段＋ザシキ（表）＋ヘヤ（裏））に分類される。特に黒島Ⅴ型は、「ミツボカコイ」と呼ばれる坪庭を有し、最も格式の高い間取りとされる。ザシキが前面道路側に配置され、ツボニワから採光する方式をとる「黒島廻船間屋型」の黒島特有の間取りと考えられる。



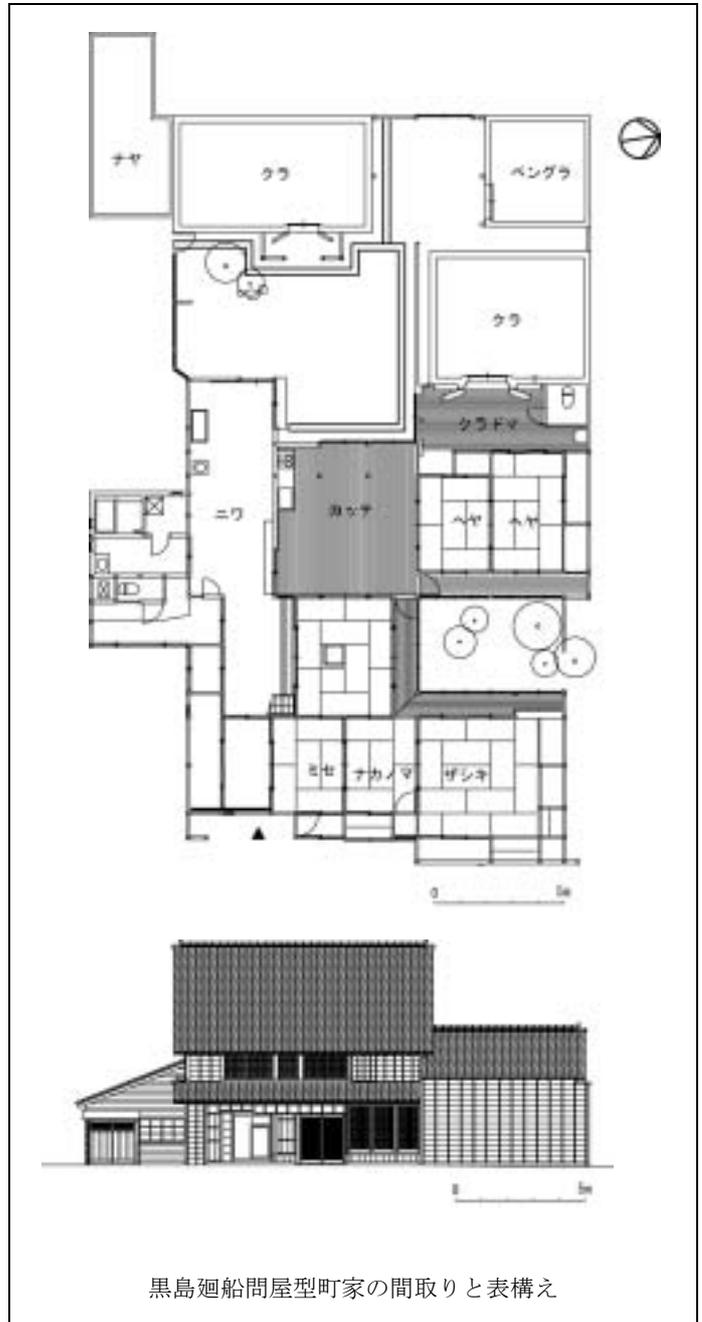
## ■伝統的建造物の外観の特徴

黒島の伝統的建造物を外観の特徴から分類すると、①切妻造平入り平屋、②切妻造平入り低二階、③切妻造平入り高二階、④切妻造妻入り平屋、⑤切妻造り妻入り二階、⑥入母屋造妻入り二階となる。

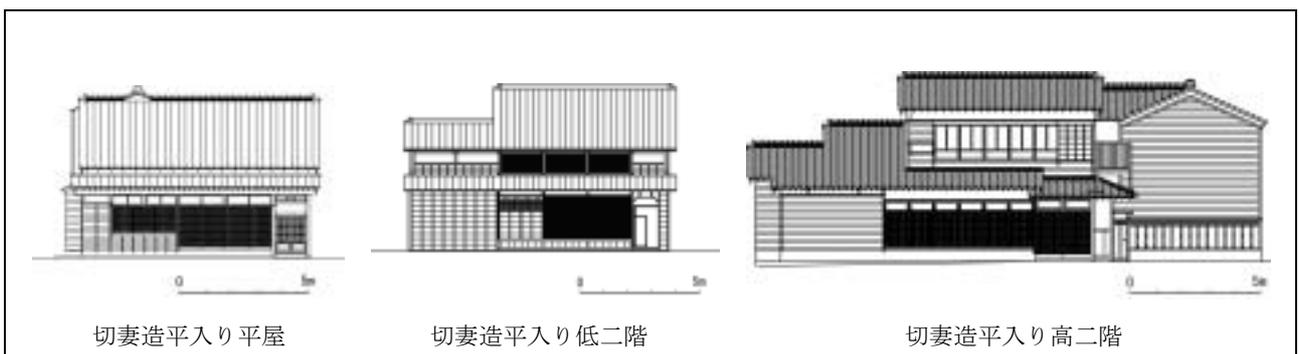
黒島Ⅰ型では、切妻造平入り平屋や切妻造妻入り平屋が多く、黒島Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ型では切妻造平入り平屋、切妻造平入り低二階、切妻造平入り高二階が多く見られる。

黒島Ⅴ型では、特に切妻造平入り低二階が多い。袖壁、サガリ、持ち送り、大戸、格子などを有している。その表構えは、北陸地方の町家と共通したものとなっている。また、表構えを形成しているのは、主屋となる二列三段にあたる範囲で、ザシキ部分は主屋とは別に平屋建てとなっている。ザシキ部分は、前面道路に対して完全に閉じられているため、最も格式の高い居室であるザシキが、表から見た場合には下見板のみの単なる付属屋として見える。

土蔵の幾つかは、主屋に隣接し、前面道路に面して立地している。主屋に付属するザシキ部分や土蔵は開口部の少ない下見板張りとなっていることから、前面道路に対しては、かなり閉鎖的な印象を与えている。



黒島廻船問屋型町家の間取りと表構え



## ■黒島廻船問屋型町家の細部意匠

### ①二階軒下の袖壁

二階軒下の両端には、袖壁が付いているものが多数ある。



二階軒下の袖壁



サガリ

### ②サガリ

1階下屋の軒下に設置される。

### ③持ち送り

持ち送りには、唐草模様などの装飾性の高い鏝（彫り物）が施される。



持ち送り



大戸

### ④大戸

潜り戸が付いた一間幅の木製開き戸である。

### ⑤格子

1階開口部には格子が付けられているものが多い。また掛戸が設置されるものもある。



格子



掛戸

## ■工作物と環境物件

### ①石垣・石段

集落に高低差があり、平らな宅地を作るために広く分布している。高度な技法から一般的なものまで、高さも幅も様々である。



石垣



石段

### ②石造物

黒島地区には石造の工作物が多いことが特徴である。鳥居、狛犬、灯籠、句碑、石碑、用水路など、集落内に石造物が散見される。



石造物



鐘楼

### ③鐘楼

鐘楼は地区内の三カ寺それぞれに存在しており、いずれも戦前からある古いものである。

### ④坪庭、樹木等

伝統的建造物(建築物)と一体となった坪庭である「ミツボカコイ」や、数本の老木・大木が残されている。



ミツボカコイ



老木・古木

参考図 伝統的建造物（建築物）の位置及び範囲図

S1/3000

凡例

- : 伝統的建造物群保存地区
- : 特定物件（148件）



北潟宣治家（切妻造平入り平屋）



工野千治家（切妻造平入り平屋）



角海家住宅家（切妻造平入り低二階）  
石川県指定文化財（修復工事中）



中谷悦二家（切妻造平入り低二階）



泉和典家（切妻造平入り低二階）



林義雄家（切妻造妻入り二階）



釜口治一家（切妻造平入り高二階）



港幸子家（切妻造平入り平屋）



中町やよ家（切妻造妻入り平屋）



坂本勝寛家（切妻造平入り低二階）



坂本勝雄家（切妻造平入り低二階）



七野孝子家（切妻造平入り低二階）



川端萬治家（切妻造平入り低二階）



中谷藤四郎家（近代和風建築）

0 150m